

○授業から学んだこと

まずはじめに、保健の授業から学んだことは生徒は他の授業と比べて興味を持ってくれているということである。研究授業の際、校長先生からのご講評でもおっしゃられていたのですが、保健というのは自分自身のこれからの将来の生活に関わってくることが多くとても生徒は興味を持ってくれました。しかし、逆に興味を示していない生徒は将来が不安に感じられるため全員参加の授業をしなくてはいけないということをおっしゃられていました。そのため、自分自身の実体験や自分では無くても周りで起きたことなどを取り入れて授業を進めてあげることでみんなが興味を持つため、特に導入には力を入れるべきであるということをおぼせていただきました。

次に体育では、本当にできない子に焦点を当てて授業を進めるということです。実習では大半が柔道の授業で、体育の中ではとても危険と隣合わせの活動でした。そんな中、できる子だけで進めてしまうと本当に事故を起こしかねないため安全面や全員参加の授業をするためには、この本当にできていない子に焦点を当てることは大切であると学ばせていただきました。また、段階的な指導という面でもできなかつたら繰り返しできるようにする、できていなくても先には進めてはいけないというように、人の死に関わる事故を起こしかねないため、無理に授業を進めないということも学ばせて頂きました。

○生徒との交流で学んだこと

私が実習に行く前は、コロナでリモート授業であったため、なかなかコミュニケーションをとる生徒がいまませんでした。どちらかというとも休み時間には携帯に向かってる生徒ばかりでした。初めの一週間は生徒との会話もほとんどなくとても長く感じる1週間でした。しかし、生徒に私の方から話しかけてみると、みんなそれ以降話しかけてくれるようになり残りの2週間は本当にあつという間でした。コロナ禍で人とのコミュニケーションを取る機会が減り、自分から話にいけない生徒が増えていると感じます。そのため、授業やホームルームなどの際にタブレットばかりを使うのではなく、言葉で生徒同士に会話してもらえようようにしていくことがより良いクラス創りになると学ばせて頂きました。

○職員室から学んだこと

ほとんどありません。先生はお昼ご飯ぐらいでしか職員室におらず、あとは、生徒と会話をしている人ばかりで、学ばせていただいたことは、職員室には長居しないことです。長居するくらいなら生徒とのコミュニケーションを取るべきと学ばせて頂きました。

○大きな学び

今回の教育実習での大きな学びは学校での組織力です。模擬授業などは大学でもできることですが、今回大きな学びであった組織力というのは本当に教育実習での場でしか学べないことであったと強く思います。実習中にさまざまな生徒の問題があり、自分自身の授業に行けない先生が出てきていました。そんな中、他の教科の先生にお願いしてもいいかなと力を借りていました。私自身も最後の週にはこの日のこの時間空きやったらお願いしてもいい？という感じでお願いされました。準備は大変でしたが引き受けて無事に授業をすることができました。このように臨機応変に対応していくことは、実際の場でしか学べないことであるので、私自身とても良い体験になり学びとなりました。